

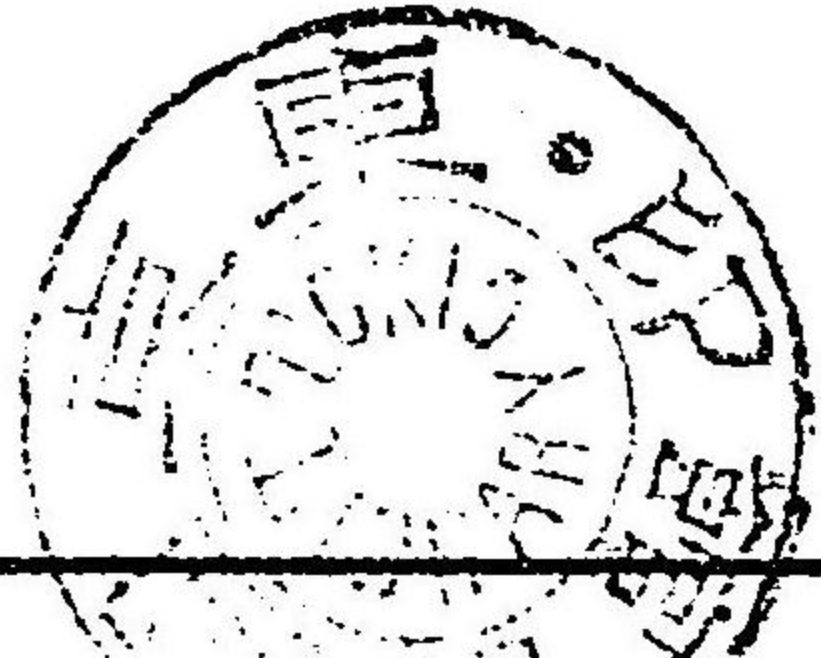
H-13

3135

97
7
712

無類勞働者





(一)

無類労働者

吾人に未見の良友あり蓋常に吾人と共にありて最も  
 吾人の無る可らざる者を供給し渾て吾人の爲に益となるべ  
 きことを謀るために日夜働かるゝなり此は如何なる者なるか  
 則ち吾人を造られし神の事なり故に吾人は分秒の間と雖神の  
 恵を蒙らざる日は無なりされど誰も未だ神を見し者はなし神  
 は靈なれば形の以て見るべきものにあらず故に吾人の眼に見  
 ること克はざるなり吾人は神の形を調製することを禁じられて  
 あれど此は父の神に就ての事にして基督に就ては大に之と異  
 なる所あり基督は形ありて恰も吾人と同様なる人間の性質を  
 受け居らるゝなり基督は常に吾人の身近に居らるゝが故に吾  
 人は基督を兄の如くに思ひ親むことを得るなり基督は誠に人  
 間の有様と毫も異なる所なく風采溫柔して過なく吾人の好摸





(二)

範となるべき者なりされど神の形無きが故に吾人に神の画像  
 や木像を調製することを許されざるなり併し聖書の内に神の御  
 心即ち無形の画あり蓋神が摩西に與へ摩西より吾人に傳はり  
 たる美麗なる画なり吾人の舊約書の内に於て其画を覽ること  
 を得べし茲の画は已に三四千年以前に成りしものなれど今に  
 於ても同様なる美彩を顯はせり摩西は神を見ることを望み  
 りしが神は摩西に詔給ふに人が神の面を直視するときは忽ち  
 死するものなるが故に其背を示し榮光をして其前を経過しめ  
 て以て神の形狀の如何と慈悲耐忍善誠とを以て人類に恵を垂  
 れ固有の罪や律法を犯せしこと又不義なることなどを赦し給  
 ふエホバの神なることを告げ給ひたりき出埃及記三十四章是  
 は誠に感謝すべき事にて其外にも神の性質を畫き出したる句  
 が聖書に記してあり使徒約翰は只に三つの言に由て美麗なる

(三)

姿を寫し出せり其言に神は愛なりと云へり又此本題よ掲げた  
 るは基督が父子關係の畫なる我父は今に至るまで働き給ふ余  
 も亦働くなりと云玉ひしことに由て神も基督も絶ず働き給ふ  
 ことを知るなり此事に就ては吾人の通例の考と少しく異なる  
 所あり吾人の考には神は榮ある位に即れ拱手端坐嚴然た  
 る帝王の如くに思はるゝなり此想像は全く過てるには非ず神  
 は眞に威嚴犯すべからざるの帝王なりされど茲の王の常に働  
 きて居らるゝなり神の働は渾て自ら造り玉ひし世界や又其上  
 に存在居住する渾ての民を守り之を統轄せらるゝことなり此  
 天に在して働き玉ふ神は無類の働者なりと云ふべし何故無類  
 の働者なりやと問はゞそれには種々の答を要すべしと雖先づ  
 第一に廣く働き玉へばなり何事よても廣く働かんとするには  
 其方法も亦それに隨て爲さる可らず譬へを今茲に數町歩の



(四)

花園を所有する者あらば是れ實に廣大の花園にして之が爲にも亦數十百人の園丁を要すべし亦大工及び泥工の類にして四百人の職工を使役せば手廣く仕事をすると云ふべし若し吾人が全都の會堂にて同時に説教することを得ば是れ實よ手廣く説教する者なれども人は一回に只一ヶ所の會堂の外説教すること克はず大工にても泥工にても渾て人の働は決して一人にて一度に彼にも此にも兼働くこと克はずされど天に在す働者は之と異なり同時に世界中に働き玉ふなり神は天に於て天の使に命令を降し玉ふにより天の使の其命令に従ひ自ら其幸福を全ふする爲に働くなり神は全世界の内にも一會堂の内にも斷ず働かるくなり吾人は只此神の保護に由て其性命を維ぞ居るなり神は邦國の大より郡村の小に至るまで高山の高きより深淵の深きに至るまで城廓の大より小亭の小に至る

(五)

まで明堂の内暗室の中まで攝理の及ばざる所なく人類の食物より魚鳥昆蟲の食餌を備へて以て其需用に充て玉へり耶穌が世界に居らるとき天空の鳥に就き汝の天に在す父は彼等を養ひ玉ふと曰はれたることあり此働者は海に於ても陸に於てもが如く繁忙く彼の渺茫たる大洋を掘り其大洋に灑入れたる水を掌にて其量をはかり玉ふべしされば此水は皆同一の支配に歸し數千の船が毎歳毎月恙なく航海し得るは渾て神の守りあるが故なり若し此守りの無きときは一艘の舟も同じ航路を往返すること能はざるべし海の内には無数の魚あり大なる鯨が遊泳ぐ有様は恰も浮して居る島の如くに見に鱗介海蟲目に見わざる程のものまでも皆天に在す働者の守りに由て存在せり眼を轉じて夜中大空を仰ぎ見る時ハ燦然たる星が輝て居るは實に綺麗にして幾千萬と云ふ數を知らず吾人は肉眼にても尙



如此無數の星を観ることを得べし況して遠望鏡にて見るときは肉眼にて見ることを得ざる數千萬の星を見るときを得べし誰にても其數を數へ盡すこと能はざるべし而して吾人は彼の星毎に人類が棲息で居ると想像せり茲の數へ盡されざる星の世界の内最小き一と雖天に在す働者の支配に歸せざる所なきなり而して此世界に住で居る人民は皆此神の愛惠救助に由て生存することを得るなり箇様に廣く働き玉ふ故に無類の働者なりと云ふべし第二には神は靜かに働かるゝなり人にして事を成すも百事靜かに經營處置するは好むべきことなり兒童の中には何事をなすにも頗る躁が敷靜謐にすること能はざるものあり恰も是れ彌生の天の小夜嵐梢を掃ふて小休なく五月日和の晴間なく轟々と鳴雷の響に最も善く似たり朝起てより夜臥るまで躁ぎ續けて勞るゝを知らず此曹が學校より歸り來

ると門外より其消息を知るを得べし樞戸を閉るに階音をさせ或は大聲を發して召使の者を召び立て或は椅子卓臺を彼方此方に移し無益の労働も躁しく全室小居るものは迷惑至極の事是等の兒童は恰も是れ警醒辰の時となり戛々として響き渡りて人の睡を醒すに似たり神の働は之と異なり百事靜謐穩和なり譬へば旭日東天に輝くときは其光り六合に輝き其勢甚だ盛大なり今試に太陽の量をはかるときは其全体を空殼のものとせば其穴を填塞る爲には此地球を一億餘も集めざれば填塞ること克はず太陽が登れば萬物を照して無限の鴻益を與れども實は靜に登りて其光を見ざるならん人々が其登りしを知らざる程なり吾人が引火奴に火を點ずるとき又蠟燭に火を點ずるときは神が全世界中を照す爲に太陽を登らせ玉ふことより一層躁しきなり又太陽が西に没りて黄昏に至れば露が降りて



樹木草花五穀に至るまで毎葉に珠玉の車を成せり渾て植物は皆此露の爲に生育し又美麗なる形を成すなり若し此濡すものが無きならば渾て植物は枯れて花を開き結果あるなからん此働を成すべき露の降るときに其音を聴く克はず誠に静なりと云べし又彼の農夫が田圃に麥種を播くや其種が地にありて漸次に雨の濡しと太陽の煦りに因り無数の麥種が皆一時に其上皮が撥けて小さき芽を噴き出し而して漸々生育して次第に穂が出て遂に實熟するに至るされど誰か種の育つ音を聴きたるものなし圃の麥種が育つときに少しも音を發せず静に生育せり如此天に在す働者は静に働かるゝ故に無類働者と云ふなり聖書に神は何事にても成し能はざることなしとあり又其旨に適ふ所のものハ天地海陸を論ぜず隠れたる所にも顯はれたる所にも其成さんと欲する所を成せり此天に在す神の働は誠に權

威ある者なりと云ふべし神が召使はるゝ僕の權威にだも忤ふこと克はず譬へを風ハ神の僕の一人なり平日は小兒の呼吸の如く柔かに戦々として吹くことあるも亦時としては暴風樹木を仆し船舶を覆す等其猛烈なる實に當り難き勢あり海も亦神の僕なり天氣快晴の時は波面平坦にして明鏡の如く鱗介躍るも尙波紋を生ずる程なりと雖一旦颶風海水を振蕩すに當ては激浪天を衝き怒濤岩を碎き其勢廣大にして城廓の如き堅牢なる軍艦にても恰も木片を以て調製したる玩具の如く漂流して吾人が杖を以て玻璃を打つが如く容易く壘粉にすることを得べし地震も亦神の僕なり是は誠に力強く吾人をして最も天に在す働者の力程を記臆せしむるものなり地震の動搖に遭ひては之に敵するものなく皆其前に倒伏し又地が其口を開くや堂塔家屋は論なく町邑に至るまで皆一瞬に吞盡して餘す所なきに至る



ことあり全世界の人々其智慧と勢力を竭して之を防止んとす  
 るは恰も廿日鼠が傾頽せる山を轉回して其倒を止んとするよ  
 異ならずりれのみならず天に在す働者は此外夥多の力ある僕  
 を召使ひ玉へり天の使も亦神の僕なり而して皆神の使令を悦  
 び何事にてても命令に従ひて直ちにりれを實行せり彼等は皆神  
 の旨に随ふことの外樂となすべきものなし而して神は此僕に  
 不思議の力を與へ玉へり故に大闘は彼等は力に頼て賢れりと  
 云へり今聖書中一ヶ處に就て天の使の力を書記されたる處を  
 讀むべしうは以賽亞の三十七章三十六節に實に興ある感ずべ  
 き咄ありさて其咄は西拿基立と云ふ亞述の王は大軍を率ひ耶  
 路撒冷城を襲ひたりしに猶太王希西家は此大軍に打勝難きを  
 知りて自分の従ふエホバの神は力ある働者にして何事も其心  
 に適ふときは成し玉ふべきを知り王は其一族及び臣下が神の

恵に由て助けられんことを神に祈れり神は預言者以賽亞を王  
 に送り其禱を聽玉ひて救ふべき神の決心を王に告玉へりされ  
 ど如何なる方法に因て其大敵の手より助け出すと云ふことは  
 知せ玉はざりしなり神は暴風電雷を興して一撃の下に亞述人  
 を亡し得らるべしされど神は此大軍を亡すに只一人の天の使  
 を遣はし玉へり只此一人の天使に如此せよと命令を下し玉ふ  
 ときは瞬間に全軍を亡ぼし盡すも只此一人の天使の力にて足  
 れりとす其夜も更行て敵軍各自の天幕の内に寂然と睡静まり  
 軒の音の微なりしが彼の天使は喇叭も吹かず時の聲さへ揚げ  
 ずして静かに之を掩撃せり乃ち其翼を兵士の上に廣げ一人毎  
 に其顔に呼吸を吹掛けたりし故假に眠りたりし一軍の兵士は  
 其儘呼吸絶て永き眠に就つとも夢の内なる又夢の浮世は夢と  
 醒たるなるべし恰も吾人が蠟燭の火を吹き消すより最輒く只



一呼吸に此大軍を打亡したる働は如何にも廣大なるものならずや此は是れ天の働者の僕の内の一一人に命ぜられたることにして天に在す働者は如個の僕を何萬人と云ふ數限りなく召使ひ玉へり如此勢強く働玉ふ故に無類働者なりと云ふなり又第四には渾て注意して事を成し玉ふ故無類働者と云ふべし神は世界の創造を終り渾て創造せられたる者を愛顧玉ひて善じと見玉へり耶蘇が此世に居玉ひしときに病を愈し警者の眼を開き働者を志して聽かしめ跛者をして歩行せ惡鬼を驅逐し死人を蘇らせ玉ひしことなど箇様なる惠の奇蹟を夥多成れしを見し人とは大に怪で彼の成すことは渾て善と呼びたり神は如此成さんと思玉ふことは餘念なく其一事を成し遂げ且つ萬古完便にして適當なる法方と以て考案し之を成玉へり吾人が製作したる器械中には完便なるものもあれど其法方を考案せ

んには數十百年の經驗を要せざるべからず譬へば蒸氣船の發明は實に完美にして重を載て瞬間に數百里の遠きに行き而して風の順逆に頼らず便利のものなり船体も廣大にして且内部の構造外部の堅牢なる一も間然するところなく至極適當のものなり試に紀元時代の大型と現今の蒸氣船とを比較する時は精粗堅脆の違は論ずるまでもなく航海の遲速も莫大の違にして昔時の船にて大洋を航行するは尙盟を以て河を渡るより危きことなりしなりされど此完全の蒸氣船も今日の如く實地に運用するまでには數百年の經驗を要し屢々失敗して漸く完全のものとなりしなり又昔時穀物を精けるには人の手を以て挽春にて挽たるものにて之を碾すも其上に夥多の牛を歩行させて其力に壓潰せしが是等の事業と現今蒸氣機關を以て精碾する事業とを比較して見るときは昔一週間を費せし事業も半



日にて成すことを得べしされど此便利なる機關を製造するに  
 も一朝の考案に成りし者にあらず數百年間の經驗に因て完全  
 のものとなりしなり人の事業は昔より日一日と進歩すれど神  
 の事業は之と異なり昔の人の上に輝きし日光は今吾人の上に  
 輝き居るなり空氣や雨や露などより四季の變更に至るまで昔  
 と今と聊かも變りしことはなきなり地に初て生じたる草は爾  
 來生じたる草と同じく初て發た花も亦其後に發た花と異りな  
 く最美麗馥郁たり肉眼を以て視定め難き微小なるものよりし  
 と天地の大に至るまで渾て注意を加へ玉へり今試に其一例を  
 掲るときは嬰子の小なる手足の指と最大なる天の使の手足と  
 異なることなく或は砂石の遊星と地球に於る燕雀の鷲に於る  
 麒麟の象に於る其大小は比較し難きも分に應じて彼此共に克  
 く注意して作られたりされば岩に纏回苔花より蝶の羽に置く

鉞などの微小にして肉眼にて視判がたきものまでも美人の美  
 麗なる容顏の如くに注意して創られたり神の創造されたるも  
 のは高山大岳深淵まで至らぬ限なく行渡りて榮の國の玉籬天  
 の使の翼神を信ずる者の爲に備へ置かるゝ金冠にも劣らぬま  
 でに全くして注意を加へ創造せりされを天に在ます働者は萬  
 事に注意し玉ふ故に無類働者なりと云ふなりりれのみならず  
 神は又渾て賢く働き玉ふことも無類ことにして此事を十分に  
 説明さんとするならば大部の書冊を成すべきなり此地球ハ神  
 の智慧の満たることを示せり先づ第一に吾人の肉体を通覽す  
 るときは如何驚くべき巧匠の結構に出るものに非ず譬へば吾  
 人の手足其地位を變ば共に如何なる用に適はん乎若し腕の肱  
 に節なく飲食其他に手を擧て屈伸すること克はざるべし加之  
 眼鼻の地位と少しく轉じて頭の後部に其眼を付け耳の地位に



鼻あらば如何体裁あしくして頗る不便のことならん果して然らば吾人が常に食物を食するときにうれを口に入るゝ前には先づ後部の眼に示し食ふに堪るや否やを檢し次に側面の鼻に至り其薰藉を辨へ知り其後ならでは其口へ入るゝこと叶はざるべし如此せば忽ち煩忙に倦き果てて飲食の勞を厭ふに至らんされど眼は直鼻口の上より飲食の口に入るものゝ適否を一々檢査せり此一事にても神の智慧の大なるを悟るに足れり且又吾人の身近にある萬の物を回顧すれば判然其智慧を悟るに足らん譬へば天空の青色の代りに白く野の緑色の代りに赤くありしならば太陽の光線反射して吾人の眼に非常の困難を感ずべしされど青空の藍々たる吾人の眼を悦ばしめ緑野の青々たるは人間の眼を養へりうれのみならず太陽の出沒にても神の智慧を悟ることを得べし蓋出沒共に漸々にして急劇ならざ

ることなり若し朝太陽が急に出るならば光線の反射に吾人眩暈し夕には室内の燈燭を一時に吹消したるが如くにて如何にも不便を感ずべし幸にして豫め夜の來ることを知て其準備をなす追ある故に外出先にて太陽が西山に沒して後も餘光のある内に歸宅することを得らるべく成し掛りたる事業をも一と先づ段落を付るを得べし若し左もなくして急ならば只に不便のみならず屢々危険の事あるべしされども神の働は賢き故に箇様なる不便利危険の無き様に成し玉へり神は又種々の動物を守り玉へる中に概ね鳥は冬に至り寒氣の爲に堪られざるのみならず食物に乏しくして必ず死するに至るべしされど秋の末に神が鳥に期候の暖なる食物のある處に飛行く様に教へ玉へりされば此時には鳥は數百里を往かざれを季候の變りし土地までは到りがたき程なれども毎年道を忘るゝことなく一定



の時節に於て必ず一定の地方に往還することを知れり此等は如何にも驚くべきことなり又駝鳥は飛類中に於て頗る鈍鳥なり人が近寄ると其翅の下に頭を匿し自ら追人を見ざれを追人も自分を見ること克はざるべしと思ふ程愚なる鳥なれども又或事には誠に不思議の智慧あるものなり駝鳥は砂地に其足にて深き穴を穿ち其内へ十二乃至二十の卵を生み落し沙を掩ひ置き大陽の煦育によりて自然に其卵が孵り雛鳥の産れ出るも四近沙漠にして之を養ふ餌なきが故に親鳥は豫め三つ四つの卵を破りそれを穴の邊に置き雛鳥が自ら食を尋るに堪るまでの食物となせり阿非理加の如く親鳥が卵を保護せざるも差支なき所にては前の如く更に關係せざるも若し少し夜寒を感じて卵の孵化るに害ありと思ふとき其所の駝鳥は夜中巢に歸りて卵の上に坐し之を煦めり又それより一層寒氣の烈しき所にて

は恰も尋常の鳥の如く晝夜巢の上に坐し之を煦めり是等は實に駝鳥には不似合の感覺なりと云ふべし蘇格蘭の或牧師は田舎に鶏を養ふ地面を所有せしが其近傍には無数の狐が居りて之が爲に飼鳥を取らるゝこと屢なれを彼の牧師ハ其要害の爲に非常ニ注意せし故四五年の間一羽も狐の爲に取られざりしが或朝該家に來客ありて之を響應する爲に下女が卵を取に往しに埒の中は實に哀れなる有様にて小屋も埒も血に染て其近傍ハ時ならぬ紅葉を敷るにさも似たり加之ならず死たる鶏は其所此所に山を成し其中央に大なる一匹の狐が横に臥し死たる真似して居たりける下女は此狐は餘り鶏を食過て食傷し死たるならんと思ひ實に思々しき狐かなと非常に立腹なしつつも狐の尾を取り提げて庭の隅なる芥溜の中に放下して棄たりけれども狐は尙死たる真似して芥穢の上に偽眠り下女が庖に



入るや否直飛起て近傍の森の木蔭に身を潜めたりと云ふことあり又渚に住む海狸が其住む巢を建る爲に地を相み材木を伐りそれを流れに流し又其建築の法方及び食物貯藏の仕方などは誠に匠なるものにて熟練なる工匠と雖之に越す者はあらじと思はる、なり海狸は曾て如此様の事業を見習たることも無く如何なる小狸と雖其親狸と諸共に同じ働を成せり又鷺は鱗介を餌にする鳥なり故に足と嘴は非常に長くして魚を捕ふるに適當なり鱗介は其性頗る怯なるが故に水面に鳥影の寫るときは恐れて逃るゝ故鷺は決して晝間日光のあるときに魚を漁りに出でず空が曇りて日が水に映せざる時には晝をも厭はず漁りに出るものなり又出水の跡などにて魚が潜水に居るときは日が映じ影が寫るにも關せず魚を漁るは誠に不思議の事なり鷺は如何にして潜水に居る魚は其影を見るも逃るゝ道なき

を知るや又流れに居ると潜水に居るとの區別を知るや渾て是等の事は意外の事にして神の働にある驚くべき大なる智慧を示し玉へるなり又初夏に田蟲と唱る蠅の如き蟲が川端などに居るものなり此蟲は始め水の淺き處に其卵を生み卵が水の底に沈みて軟なる泥の中に入り一陽來復の暖氣を待て卵が孵化り一寸前後になるまで水の中に居りそれより陸に登り蠅になれり蓋水の中に居ては蠅に姿を變化すること克はざるが故なりされども如何にして陸まで登ることを得べき乎されば神は漁關車の如き者を其體內に具へ蟲が水を呑むと其水が漁關狀の螺旋を動かし其助に因て水底より岸の上に至るなり陸に登りては蠢くこともなく恰ら死しものゝ如き有様なれど日光は之を曝し蟲が被り居る殻が萎びて破るゝや否翼を具へて飛翔り神が定めし最短き其生涯を送るなり記者は此蟲の變化の



順序を目撃せしにはあらず湖水の上りに住居せし貴人の毎々  
 湖水の端を散歩して見出せしことを余に告しなり之を目前に  
 見るとは如何にも興あることなるべし若しも箇様の事を尋  
 求むるならを渾て神の働は智慧に充たるを以て何れの處にも  
 同様の不思議を見出すべし此天に在す働者は如此手廣く靜に  
 強く注意して而して賢く働き玉ふ故に無類働者なりと云ふべ  
 し吾人は此主意より二つの事を學ぶべし第一に働は貴きもの  
 なることなり或人は自分の生活の爲に働くことを余人に知ら  
 るるを耻る者あり此は誠に愚なることなり吾人は怠惰を耻ざ  
 るべからず働くことを耻るの道理は世界中に無きことなり人  
 は罪の外愧ることばなきなり事業は何事によらず正しきこと  
 を貴ぶ神も亦如此働き玉へり吾人の救主王の王主の主なる基  
 督も吾父は今に至るまで働き玉ふ吾も亦働くなりと仰せられ

たりき是れ則ち働の貴きことを示されたるなり此主意に基き  
 て吾人は如何になすべきや渾ての事業は神に法りて試みざる  
 べからずと雖も五ヶ條の科目を悉く擬んとすることば愚なる  
 ことにして企て及ぶところにあらず然れども吾人は事に靜に  
 し且注意して働くことは試みらるべし幼少の時より靜穩なる  
 ことに慣習となるは誠に善き事なり神は至て靜にして太陽を  
 上らせ又露を降し穀物を生長せしめる有様などを考へ吾人が  
 爲すべきことを同様に靜に成すべきなり又注意することも同  
 じく神に習はざるべからず古語に一以て之を貫くと神は渾て  
 如此成し玉へり吾人も亦其如く成さるべからず世に名高き  
 譽れを得たる人は渾て事業に注意して爲すものなり英國の或  
 法律家が或時に裁判所の對審に於て原被の議論ありし時原告  
 の法律家は當時名高き人なりしが若年の時は至て貧乏にして



貴人の僕なりしが又被告の代言人は貴族の子にして常に傲慢にして人を見下したりき今原告の法律家に對し昔時貧乏なりしことを云ひて辱めたり則ち彼に向つて汝今更何を喋々せんとするや吾は汝が吾父の履を磨き居りしを記憶すと云へり然れども彼の法律家は從容として答て曰けるは實に然り果して然らば如何にや吾嘗て汝が父の履を磨くに不注意なりしやと答へたりとぞ噫此答が彼畢生の事業を成就するの基なりしなり注意して働く人は必ず成業せざるなく靜に又注意して働く人ならば蓋し神の恩恵に由て又外の人をも助るものと成るべし

明治廿一年十一月五日印刷  
 明治廿一年十一月八日出版

東京府士族  
 發行譯者兼 淺井元光

小石川區小日向臺町  
 一丁目五番地

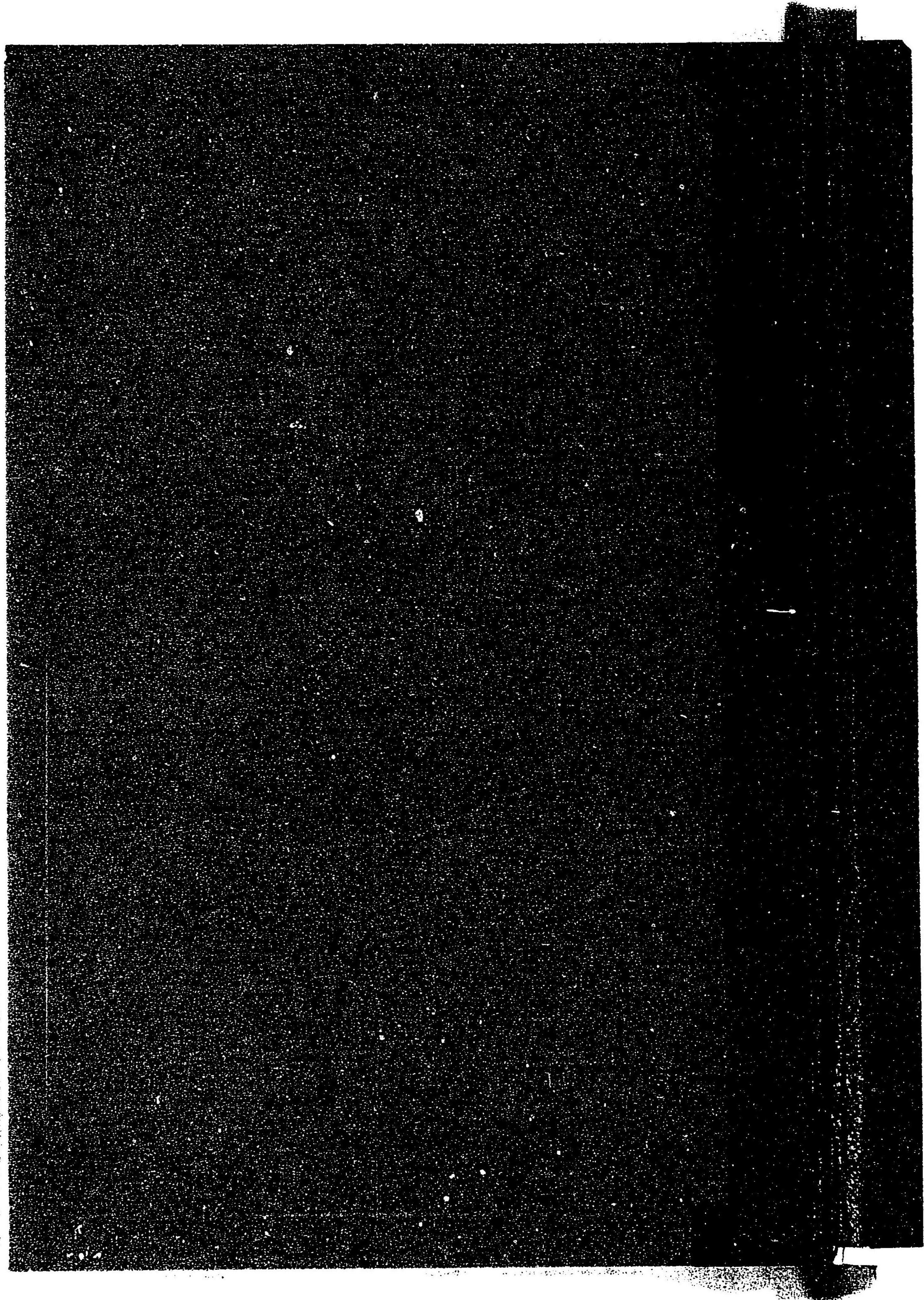
印刷者 廣瀬安七

東京日本橋區兜町  
 壹番地製紙分社



H-13.







9



無類労働者

国立国会図書館

041596-000-4

特49-563

無類労働者

浅井 元光/訳

M21

BDH-0063



特

56



